

# 研究所だより

第367号  
2016年 11月 9日  
発行：土佐清水市教育研究所  
TEL 82-3015

“ふけゆく秋の夜 旅の空の わびしき思いに ひとり悩む  
恋しやふるさと なつかし父母 夢路にたどるは さとの家路  
ふけゆく秋の夜 旅の空の わびしき思いに ひとり悩む”  
日本の唱歌『旅愁』 1907年  
原曲：アメリカ歌曲 1868年  
『Dreaming of home and mother』（故郷と母を夢見て）



## 〈委託事業：研究協力校公開授業-下ノ加江小編②-〉

～「平成27・28年度高知県実践的防災教育推進事業」拠点校～

○「防災学習」（防災参観日）

期 日：10月18日（火）

指導者：大木聖子先生（慶應義塾大学 環境情報学部 准教授）  
齋藤 文先生（慶應義塾大学 環境情報学部 大学院生）

- 内 容： ①実践発表  
②児童の学習発表  
③「避難場所について考えよう」（地区別学習会）  
④ 大木先生の全体講評



下ノ加江小学校は「平成27・28年度高知県実践的防災教育推進事業」の指定を受け、今年が2年目です。1年目で培ったきた学習を2年目は地域・保護者を巻き込んで普及させていくことにも取り組んでいます。その一環として「防災学習」（防災参観日）を設定しました。

初めに、藤原教頭がこの2年間の実践発表を行いました。続いて3、4年生による学習発表。地区別の危険箇所マップを作成し、それを基に調査して気づいた「いいところ」、「課題のあるところ」を発表し、最後に自分の意見も述べるものでした。発表後は、参観していた地域・保護者と共に地区別（登校班：5地区）に分かれて「避難場所について考えよう」をテーマにワークショップに移り、上級生がリーダーシップをとって、会を進めていきました。話し合いでは、区長さんや防災教育実践委員会の皆様から子どもたちの説明やマップを補足するような詳細な意見も出されました。出された意見は、

- ・道路が狭い。石垣やブロック塀が危険。
  - ・落石等で道路が遮断されるー孤立する。
  - ・道路が崩れる。鍵掛の人々は自分の家が避難場所となる。
  - ・避難道一倒木や落ち葉で滑りやすい。など
- その後話し合いのまとめを発表する。子どもたちの感想には、
- ・区長さんからいろいろな話が聞けたので良かった。
  - ・自分たちでできることがいっぱいあることがわかった。
  - ・身の回りに大小の危険性があることがわかって良かった。
  - ・家具の固定の必要性を感じた。



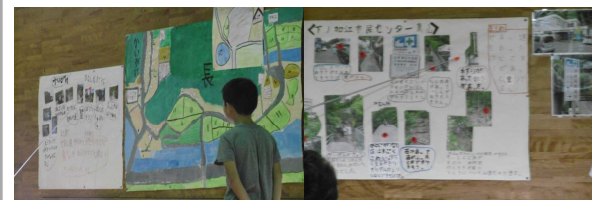
全体講評では、大木先生の「日々用意しておくものは？」の問いかけに、

- ・家具の固定（80%の人が倒壊で死亡）
- ・リュック、くつ
- ・ライト（特にヘッドライト型がいいそうです）

などの意見が出されました。

また地震発生前後について、発生までにしておくことは何か。発生後津波がくることを想定してやるべきことは何か。僕が私がやることができることは何か。最低必要グッズを準備する。そして、「みんなの命を大事に思ってる人がいるから学習をしています」と締めくくりました。

## ②児童の発表



“自作防災マップを基に「いいところ、課題のあるところ、感想等」を発表”

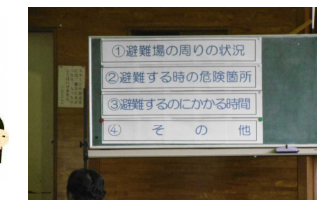
## ③地区別学習会



“区長さんの話と真剣な話し合い”



## ③地区別学習会の内容



## ④講評



“大木先生の講評と地震発生前後の行動等についてまとめた紙に全員でメッセージを書きました”

参観日の翌日も、大木先生による全校授業が行われました。授業内容は、防災学習の中でも風水害にポイントをおいたものでした。設定は「10月のある日、あなたは、おばあちゃんと2人きりで自宅にいました。他の家族はみんな外出中です。昼過ぎから雨が降り始めました。」です。そして、気象や外の状況等の変化を2時間毎に提示していきます。「自宅のあなたとおばあちゃんが外の様子を伺っています。」20時、「ひなん じゅんび じょうほう」が発令されました。その時、自宅にいるあなたになりきり、「避難する」「しない」を判断し「する」「しない」に分かれ、そう判断した理由を発表していきます。最初は、「じゅんび じょうほう」だから避難しないという人が多くいました。時間の経過と共に外の状況等も変化していきます。22時、「ひなん かんこく」が発令されました。その時、自宅のあなたは、どうしますか。若干「避難する」が増えました。「もっと暗くなったら今より危険になるから」「他の人も逃げているから」「しない」は、まだ「かんこく」だから、「しじ」ができるまでは避難しない。「暗い、大雨だから危険」…など低学年から高学年、先生たちも入り混じって真剣に話し合いました。最後に大木先生が「家族でハザードマップを確認してくださいね」と投げかけて終わりました。

※「避難準備情報」：高齢者・身体障害者・子どもなど災害弱者を早期に避難させるため呼びかけるもの



①場面設定 → ②理由発表 → ③真剣な眼差し → ④大木先生の講評



